

第2回 市長と語ろう！ふれあいトーク(高齢者の介護と福祉)会議記録

- 1 日 時 平成 21 年 8 月 27 日（木） 午後 2 時から 3 時
- 2 場 所 高岡市社会福祉協議会館 3 階会議室
- 3 出席者 ・ 地域包括支援センター代表者 10 名
・ 社会福祉協議会介護サービス事業者担当者 9 名
・ 高岡市
市長、福祉保健部次長、高齢介護課長、広報統計課長
- 4 会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 各団体活動紹介
社会福祉協議会の事業
市長が介護サービスを行う現場や事業所を訪問し、各事業について説明を受けた。
地域包括支援センターの活動状況
戸出・中田地域包括支援センターより説明。
 - (3) 意見交換

意見交換

介護サービス事業をめぐる現状と課題

出席者（居宅介護支援事業所）

- ・ 現在、ケアマネジャー12人で業務を行っている。週1回ケアマネジャーの研修会を行っている。また、地域包括支援センターからも助言・支援を受けている。

出席者（居宅介護支援事業所）

- ・ 利用者の希望するサービスと、家族の希望するサービスの内容が異なることが多い。利用者に適したプランを提供するために、利用者や家族に納得してもらう説明が重要である。
- ・ サービス事業者側に、希望するサービスについて対応が困難であると断られることもある。
- ・ 総合病院に地域医療連携室があるおかげで、以前より医療との連携はとりやすくなったと思う。

出席者（訪問介護事業所）

- ・ 大学や専門学校などの研修・実習の受け入れをしている。将来の介護サービス従事者を確保できればとの思いで受け入れている。
- ・ 利用者ができないことをヘルパーがやってしまうのは簡単だが、利用者の自立を促し、自立に向けて支援していくのは大変難しい。

出席者（訪問介護事業所）

- 利用者の入退院や死亡などの事情によりサービス利用が突然変わることや、急にショートステイやミドルステイなどの利用が必要になることもあり、サービスの調整が大変難しい。利用者とヘルパーの相性などの問題もある。
- 事業としては市内全域を対象としており、次の提供先まで遠く、移動に時間がかかることがある。ヘルパーの移動時間については介護報酬に算定されない部分である。

福祉保健部次長

- 市内のヘルパーステーションの絶対数の問題もあるし、ヘルパーの移動に対する報酬がないなど介護報酬については、介護保険の制度上の問題もあると思う。
- ヘルパー、ケアマネジャーなどと利用者が連携しやすい、利用しやすいものになるようにしていきたい。

市長

- ケアプランについて、家族と利用者の間で思いが違うというのは大変難しい問題で、ご苦労されていると思う。家族と利用者の環境づくりや意識啓発、利用者の周辺や行政からのメッセージが必要である。
- ヘルパーのエリアと移動の問題もご苦労が多いと思う。先ほどおっしゃった「やってしまうのは簡単」「利用者の自立に向けてどう支援していくか」という点についてなど、事例の研究として、お互い情報を交換していく場があればよい。困難事例や成功事例などケースをそれぞれで蓄積し、活用していったほしい。

地域ケア体制の現状と課題

出席者（地域包括支援センター）

- 地域包括支援センターは、地域住民には「何か相談にのってくれるところ」と浸透してきているが、自治会など地域の各団体には全く知られていない。各団体とネットワークを組んでいく中で、周知を徹底していくようにしていきたい。
- 地域の各団体ごとにはいろいろと取り組んでいるが、点と点を結ぶ線がまだできていない。
- 市で「福祉を考える全体会議」などをやってみてはどうか。

出席者（地域包括支援センター）

- 地域包括支援センターでは「なんでも相談」のようにいろいろな相談を受けている。昨年は2,669件の相談を受けたうち、600件は認知症に関するもので、今年になってもその割合は増えている。ひとり暮らしの認知症の方も増えているが、すべての方が施設に入れるわけではない。在宅では24時間、365日のサービス、対応は難しい。
- 地域・医療・福祉で支え合うしくみづくりが大事である。昨日から今朝にかけても、転倒して動けず、発見されるまで5日間そのままだった方を入院させてきたところ

である。ひとり暮らしであっても、脱水症状だけでは２週間までの入院しかできない。医療・介護・福祉のサービスから抜け落ちて、何も利用できない方を今度どうするかが課題である。

- ・ 実態把握訪問の 15 分～20 分程度の対面では認知症の有無を判断するのは難しく、職員の力量が問われている。認知症は早期発見が大事であるので、今後も取り組んでいきたい。

出席者（地域包括支援センター）

- ・ 市長記者会見の記事で「地域ぐるみの福祉・健康のまちづくり」プロジェクトチームが発足されたと知り、関心を持った。
- ・ 日頃、医療との連携がスムーズに行っていないと感じている。介護と医療は密接な関係にある。高齢者の日常の生活機能については、短い診察時間の中では把握は難しいかもしれないが、医療の側の理解がないと感じる。
- ・ 地域支援事業が高齢者全体に行きわたるようなシステムづくりをしていきたい。医療機関・行政・地域包括支援センターが一体となって協力していきたい。

市長

- ・ 地域・福祉・医療の連携については大変重要であるが、どこまでうまくいっているのか正直に言ってわからない。行政側からすれば、「会議等はやっている」ということになるのだろうが、現場とのギャップがあるのだろう。
- ・ 地域包括支援センターの存在や役割が地域の自治会等に知られていないというのは深刻な問題である。
- ・ いただいたご意見を、プロジェクトチームで取り組んでいく際の参考とさせていただきたい。

福祉保健部次長

- ・ 地域包括支援センターでこれだけたくさんの事業をやっていただいている。市としても自治会の会合の際などに、地域包括支援センターについての案内をするなど、PRに努めている。今後もPRしていきたいが、地域包括支援センターでもどんどんPRしていったほしい。

その他の意見交換

市長

- ・ 先日の民生委員の会合でも、地域の個々の方々について、民生委員でも把握できない状況であると同った。地域の各団体で持っている情報を共有できればよいと思う。
- ・ 認知症の方については、対面しただけではなかなかわからない。プロジェクトチームでは、高齢者の見守りなどのしくみづくりなどの案も出している。みなさんのアイデアを個別でもよいのでお寄せいただきたい。

出席者（通所介護事業所）

- デイサービスでは、サービスを利用することにより元気になる利用者も多い。一方で、この何日かは風邪の方も多く、対応に気を配っているところである。

出席者（通所介護事業所）

- 利用者の中には、熱があっても来る方がいる。先日もインフルエンザで 39 度の熱があった方について、担当のケアマネジャーなどと連絡をとり、入院させたことがあった。一人ひとりの方を大切に、目配り・気配りをしながら対応していきたい。

市長

- インフルエンザ対策では、行政のスタンスは「なるべく他と接触しないように」というものだが、利用者の家族にしてみれば、少しでもデイサービスに行ってもらえれば、との思いがあるのだろう。
- 利用者のインフルエンザの件は適切に対応していただいた。このように現実に関わることが起きたときのノウハウなど、事例を蓄積し、共有できるしくみをつくっていききたい。